

毎月11日掲載

## 防災・減災のページ

むすび塾

## 第66回ワークショップ @仙台・種次 東部道路

河北新報社は4月22日、津波避難をテーマに、通算66回目の防災・減災ワークショップ「むすび塾」を仙台市若林区種次地区で開いた。住民のほか、復興支援活動や仕事で地区を訪れる学生やタクシー運転手を含めて13人が参加。東日本大震災の際に津波をせき止めた盛り土式の仙台東部道路を視察し、震災後に整備された避難用非常階段の使い方を確認、備えの心構えを新たにした。

## 高さ6メートル 緊急時に有効

仙台東部道路の避難階段を上り、ネクスコ東日本の阿部さん（左端）から説明を受ける参加者  
=仙台市若林区三本塚

東日本大震災の体験や教訓を振り返り、専門家と共に防災や避難の課題を語り合っています。連絡先は河北新報社防災・教育室022(211)1591。次回のむすび塾は27日、東京新聞と共に東京・墨田区曳舟地区で開きます。



## 非常階段を整備

## 宮城沿岸4市町に13カ所

## 選択肢の一つ 周知徹底

■ 専門家から

車避難を考えている地元の人から「東部道路は必ずしも優先度が高い避難場所ではない」との声が多く聞かれた。善い人は多く、周知してほしい。そして、その気持ちは分かる。

ただ、「切羽詰まった時は東部道路」という知識が浸透しているのも事実で、これは意識付けと同等に大事なことだ。知識がないと選択肢がなくなる。東部道



路も避難先になりうるといふ知識は、地元でしっかりと周知してほしい。同時に「知っているだけでは駄目」ということも伝えたい。

訓練で体に覚えさせておかないといけない時。動けなくなるのが人間だ。大切な知識を広く伝えつつ、いかに訓練の機会を増やしていくかが今後の課題と考える。

東北大災害科学国際研究所所長 今村 文彦さん



車避難は危険が大きいことを改めて強調したい。「車は便利」「車を失つたら被災後の暮らしが大変」といふ声はその通りだが、決して車で逃げられるとは思わない。似た状況は北海道や高麗半島に巻き込まれて多くの犠牲が出た震災の教訓を忘れてはならない。本当にみんなが車で逃げたらどうなるか。計画だけではなく、実際に訓練で確かめることを勧めたい。その上で、複数の避難場

員として若林区のまちづくりに関わったのが縁で、「東部道路を避難場所に」と求める住民運動の事務局をしてきた。実現前に震災が起きたのは無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。今後も盛り土構造の道路には無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。今後も盛り土構造の道路には無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。

員として若林区のまちづくりに関わったのが縁で、「東部道路を避難場所に」と求める住民運動の事務局をしてきた。実現前に震災が起きたのは無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。今後も盛り土構造の道路には無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。

員として若林区のまちづくりに関わったのが縁で、「東部道路を避難場所に」と求める住民運動の事務局をしてきた。実現前に震災が起きたのは無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。今後も盛り土構造の道路には無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。

員として若林区のまちづくりに関わったのが縁で、「東部道路を避難場所に」と求める住民運動の事務局をしてきた。実現前に震災が起きたのは無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。

員として若林区のまちづくりに関わったのが縁で、「東部道路を避難場所に」と求める住民運動の事務局をしてきた。実現前に震災が起きたのは無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。

員として若林区のまちづくりに関わったのが縁で、「東部道路を避難場所に」と求める住民運動の事務局をしてきた。実現前に震災が起きたのは無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。

員として若林区のまちづくりに関わったのが縁で、「東部道路を避難場所に」と求める住民運動の事務局をしてきた。実現前に震災が起きたのは無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。

員として若林区のまちづくりに関わったのが縁で、「東部道路を避難場所に」と求める住民運動の事務局をしてきた。実現前に震災が起きたのは無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。

員として若林区のまちづくりに関わったのが縁で、「東部道路を避難場所に」と求める住民運動の事務局をしてきた。実現前に震災が起きたのは無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。

員として若林区のまちづくりに関わったのが縁で、「東部道路を避難場所に」と求める住民運動の事務局をしてきた。実現前に震災が起きたのは無念だが、願いかつて避難段ができるのは感慨深い。